

提出日 2019 年 1 月 11 日

2018 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「 竹富島重要伝統的建造物保存地区について 」

氏名：奥平晟奈 諸見田ひかり

所属学部学科：こども文化学科

I. 初めに

竹富島重要伝統的建造物群保存地区とは、どのような場所なのか、歴史的な建造物を現代の暮らしに合わせてたり、環境を守るためにはどういうことをしたりするのかを明らかにすることが研究の課題である。

II. 研究の目的、動機

以前、実際現地へ足を運んだ際に、竹富島重要伝統的建造物群保存地区のことを知り、興味を持った。そこで、今回の研究を通して、竹富島重要伝統的建造物群保存地区についてや規則、実際住んでいる町の人達の声を聞き、どのように現在の暮らしに合わせて保存しているのかを調べた。

III. 研究方法、地域、期間

9月18日(火)~9月21日(金)の期間で現地での聞き取り調査を行った。現地では、小学校や住人の人に、竹富島重要保存地区についてどのような思いがあるのかなどについてインタビューをした。また、竹富町教育委員会や石垣市立図書館へも足へ運び、文献調査も行った。

IV. 結果

・インタビューしたこと

○美しい町を残すために取り組んでいることは？

→早朝の掃除

○竹富島の人以外でも住むことはできるのか？

→できる。実際、県外からの移住者もいる。

○車は保存地区内を走れるか？

→走れる。しかし、観光客などは自転車か水牛、徒歩で観光している。(水牛は道幅を広くとってしまうので島の人は反対)

○外観の見た目はほとんど同じだが、区別はつくのか？

→しっかりと分かる。また、県外から引っ越ししてきた人の家は赤瓦屋根じゃないため、そこも区別できる。

○竹富小学校の先生方はみんな竹富島に住んでいるのか？

→4名以外は住んでいるが、4名に先生は石垣島から毎日船で通勤している。

○観光客の増加をどう思っているか？

→洋服を着ないといけないというルールを守らなかったり、町が騒がしくなったりして良いようには思っていない。

現地での聞き取り調査では、保存地区だけあって、外観は赤瓦屋根の同じ家の造りで、見た目では区別ができなく、内装は現代に合わせて暮らしやすいようにエアコンやテレビ

などの設置が考えられた造りになっていて、県外から引っ越ししてきた人達はコンクリートの家などに住んでいた。郵便局や学校も赤瓦屋根の造りになっていた。竹富島の小学校の子供たちは、大人になり家を建てる時は、同じような赤瓦屋根の家になりたいと言っていた。また、観光客が増加し、ゴミを持ち込んだり、洋服を着ないといけないという町内のルールを無視したり、通行人の増加や自転車通行のマナーの悪さ、写真を撮るために住居に勝手に侵入するといった問題が出てきた。そのために美しい町を残していこうという町の人々の努力として、昔から継続している早朝の掃除を毎日行ったり、竹富町の住人以外は車を持たなかったりして、バスや自転車、水牛などが主な移動手段であることが分かった。しかし、水牛での移動手段については、牛の糞尿で道が汚れたり、道を独占したり、家の前に何分も牛が止まることもあるなど、住民にとっては私生活に影響を及ぼすこともある。観光客の増加は島にとってはプラスだが、住民にとってはマイナスな面が大きいことが分かった。

V. 考察、分析

竹富島重要伝統的建造物群保存地区はテーマパークではなく、島の人々が生活している場である。それにも関わらず、観光客によるマナー違反などの問題が多く発生している。このことは、近年の観光客の増加が大きく影響しており、それは SNS の発展で、「インスタ映え」などという言葉があり、美しい建物を撮って SNS に載せるといった目的で訪れているのではないかと考えられる。

VI. 今後の展望

現在、竹富島重要伝統的建造物群保存地区は観光名所となるくらい有名になっている。しかし、その観光客による問題が多く発生していることや、少子高齢化の影響で子どもの数が減ってきているため、継承が難しくなっている。この問題を解決するために、観光客への説明や美しい町の風景を壊さないようなやり方の工夫が必要だ。また、うつぐみの心（島を大切に作る心）を持ち、進学で島を離れてももう一度戻ってくるということも必要ではないか。他にも、石垣島からの橋が架かることになると、観光客が今よりも増加し、車で訪れることになると思うので町をきれいなままにするために、それは避けるべきことだと思う。これからも美しい町を残していくために、島だけでなく県全体でのサポートなども必要になると考える。

VII. 終わりに

今回、竹富島重要伝統的建造物群保存地区について調査してみて、実際に竹富島へ足を運んで、自分たちの目で見たり聞いたりすることができて、竹富島はたくさんの島の人の思いが詰まった町だなと思った。また、竹富島重要伝統的建造物群保存地区についても、子どもからお年寄りのまで島の人たち全体が誇りを持っていて、この町を守ろうとしてい

る努力が伝わってきた。これからもうつぐみの心を忘れずに、美しいを継承して行ってほしい。

VIII. 参考文献、調査協力

- ・竹富小学校の児童
- ・竹富島の住人の方々
- ・竹富町教育委員会の方々
- ・文化庁 「伝統的建造物群保存地区」

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/>

- ・「沖縄の原風景が残る竹富島」

https://www.hptej.or.jp/Portals/0/data0/hp_ts/sample_cool/pdf/39g_p14_p15.pdf#search=%27%E7%AB%B9%E5%AF%8C%E5%B3%B6+%E5%AE%B6%E3%81%AE%E4%B8%AD%27

- ・小さな島宿 cago

<http://taketomi-cago.com/%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%83%BC%EF%BC%86%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%AB%E9%81%95%E5%8F%8D%E3%81%8A%E6%96%AD%E3%82%8A/>

- ・2011/5/9 日本経済新聞

https://www.nikkei.com/article/DGXNASJC0800A_Y1A500C1ACY000/

IX. 指導教員コメント

実際に現地に出かけ、保存地区の実態把握につとめたことは、今回の研究の良い点だと思う。保存地区の設定の意味を考えるためには、本土復帰以前から本土資本によって島の暮らしや文化が破壊される状況があったことも念願に置く必要があり、その点がもう少し押し出されればよかった。